

# 東京都公立小学校 女性校長会報

第67号

平成23年度 第2号  
平成23年12月 発行

## 研修の成果を振り返って

会長 三石 美鶴

文京区立関口台町小学校長

今年も残すところわずかとなりました。会員の校長先生方には、忙しい中にも充実した年の瀬をお過ごしのことと存じます。何人かの校長先生から研究発表会が盛会裏に終了したとのご報告もいただいております。正に、実り多き二学期でした。

東京都公立小学校女性校長会も

夏季休業中や二学期に、私たち自身の資質向上と後進の指導・育成を目指し、研修会・講演会を実施して参りました。その集大成として、十二月三日には、小中合同の研究発表会が行われ、小学校から

選考に対応するための夏季研修会を開催しました。今年で三年目を迎え、年々参加者が増えていて、ことを嬉しく思います。役員をはじめ会員の校長先生が面接官となり、一人一人丁寧に、親身になって面接指導を行いました。面接研修後には帝京科学大学教授・前豊島区立目白小学校長・小池和男先生より管理職の心構えを中心とした大変貴重なご講話を頂きました。小池先生には模擬面接の様子もご覧いただき、面接官役の校長先生方の熱心な指導を高く評価していただきました。

は二名の校長先生が、素晴らしい経営実践の報告をしてくださいました。これらの活動を振り返り、ここに報告させていただきます。

その前に、悲しいお知らせですが、十二月五日に本会員 杉並区立富士見丘小学校長 浅川佳代先生が薬石効なく、ご逝去されました。

ここに謹んで哀悼の意を表し、ご冥福をお祈り申し上げます。

【校長・管理職受験対象夏季研修会】

七月十八日、渋谷区立加計塚小学校を会場として、副校長・主幹教諭を対象とした、校長・管理職

選考に対応するための夏季研修会を開催しました。今年で三年目を迎え、年々参加者が増えていて、ことを嬉しく思います。役員をはじめ会員の校長先生が面接官となり、一人一人丁寧に、親身になって面接指導を行いました。面接研修後には帝京科学大学教授・前豊島区立目白小学校長・小池和男先生より管理職の心構えを中心とした大変貴重なご講話を頂きました。小池先生には模擬面接の様子もご覧いただき、面接官役の校長先生方の熱心な指導を高く評価していただきました。

### 【講演会とミニコンサート】

九月十日（土）新宿区立鶴巻小学校にて、「心を届ける話し方の演題で、フリーアナウンサー・

「日本スピーチ・話し方協会」代表理事の大橋照子先生より、「一、話し上手になるために」「二、発声の基礎」「三、滑舌の練習」を柱とするお話をいただきました。実際に参加者も、腹式呼吸の発声や滑舌を良くするための早口言葉

等の実践も行い、少し話し上手になったと思える、大変有意義な講演会となりました。講演の前には、恒例となりました国立音楽大学の学生さんによるバイオリンとピアノのミニコンサートが開かれ、美しい音色に素敵なひと時を過ごすことができました。

### 【小中合同研究発表会と教育懇話会】

十二月三日には、府中市立府中第三中学校を会場に研究発表会を行いました。府中市立府中三中谷合しのお校長、新宿区立鶴巻小小嶺嘉代子校長、町田市立鶴川三小 高倉ひでみ校長から創意工夫された活力ある学校経営についての発表があり、講師の白鷗高等学校・附属中学校校長星野喜代美先生より有意義なご指導をいただきました。この後の星野先生を囲んでの教育懇話会も、元気をいただく楽しい会となりました。

来年も、「磨き合って輝く女性校長会」を目指し、研鑽して参ります。

来年も、「磨き合って輝く女性校長会」を目指し、研鑽して参ります。

来年も、「磨き合って輝く女性校長会」を目指し、研鑽して参ります。

講演会

# 心を届ける話し方

フリーアナウンサー 大橋 照子

平成二十三年九月十日(土)  
会場 新宿区立鶴巻小学校

## I はじめに

私は、四十数年アナウンサーの仕事をしていました。時には、二十〜三十数年前と同じ声で、すぐに録音をしなければならぬこともあります。張りのあるつややかな声を出し続ける難しさがあります。

## II 心を届ける話し方のために

### 一 話し上手になるために準備するもの

#### ア 鏡

どんな人かは、顔を見るとわかっています。自分の様子を見るのが大切です。

#### イ ボイスレコーダー

自分の声を聞かなければ、自分の声も癖もわかりません。自分の声を聞くことが必要です。

#### ウ メモ帳

私の必需品です。十年は使える

日付のない、バッグにいつも入れておけるものにします。ネタは腐りません。笑い話・感動話・失敗談・季節の話・感銘を受けたこと等ページに題名を付け、見つけた時、考えた時に書き留めます。使ったら、評価を書きます。受けたら◎だめだったら×のようになります。

以上のは話し上手になるための「三種の神器」です。

### 二 発声の基礎

#### 人前で話しても上がらないコツ

は、イメージトレーニングです。目の前に一番苦手な状況をイメージし、緊張して力が上に上ったなら、足の裏から力を流す。肩も楽に、喉の力も意識して抜く。頭の芯に意識をすると、血の巡りがよくなります。この状態がよい状態です。

#### 次に、肺をおなかで膨らませる

「腹式呼吸」です。この呼吸で話すと、どんなに緊張していても落ち着いて聞こえます。

それから、げんこつを作って口に入れた状態で「あー」とできるだけ長く声を出す。口を大きく開けることに慣れてくると、だれでもはつきり、ゆっくりと話すことができるようになります。

### 三 話し方の練習

話をする時に大切なことは、相手への思いやりの心をもって心の交流ができること、聞いている人に心地よい話し方ができると、社会人として「すみません」だけではなく丁寧語が使えることです。

### 四 人前で自分の意見をまとめて話す

世界に活躍する子どもを育てるにはスピーチが必要です。多くの人の前でも自分の意見が言える子ども育てなければなりません。

### 五 インパクトのある話をする

強さ・スピード・間などを工夫し、表情のある話し方をしましょう。

### 校長・管理職受験者対象 夏季研修会

管理職激減の昨今、一人でも多く女性校長や管理職になつていただきたい。副校長、主幹教諭対象の夏季研修会を実施いたしました。

### \*七月一八日(祝)

#### 渋谷区立加計塚小学校にて

前半は、グループに分かれての面接研修。指導校長の先生より懇切丁寧で、時には辛めの指導もあり、本番さながらの緊張感のある研修でした。受講した先生方からは、「女性ならではの相談もでき、とても有意義な面接練習でした。」というお声もいただきました。

#### 後半には、帝京科学大学教授小

池和男先生からご講話をいただきました。演題は、「面接試験受験に對する心得」です。現に、校長職にある私共も改めて考える機会をいただき、大変勉強になりました。受講生からは、後日、吉報もいただき、喜びもひとしおです。

渋谷区立加計塚小学校校長

文責・葛飾区立原田小学校校長 角田 由美子

高橋 妃彩子

# 小中合同研究発表会

研修I部部长 西久保 律子

町田市立図書館小学校

平成二十三年十二月三日(土)  
府中市立府中第三中学校にて

③個別指導の充実 ④特別支援教  
育への対応 ⑤家庭の協力 ⑥朝あ  
そびの六点に取り組んでいる。

## 〈研究主題〉

「新しい時代を切り拓く心豊かで  
たくましい日本人を育成する学校の  
教育推進」豊かな人間力で明日を拓  
く子どもをはぐくむ学校経営」

「生きる力をはぐくむ学校経営」  
知識・技能の習得・活用と思考力・  
判断力・表現力等をはぐくむ学校  
経営」

新宿区立鶴巻小学校校長

小嶺嘉代子先生

学校経営の柱は、「学力の向上」  
「体力・健康の向上」「心の教育の  
充実」補足として「教育環境の整  
備」「開かれた学校」「職務の厳正」  
である。「生きる力をはぐくむ」  
ために、「学力の向上」「体力・健  
康の向上」「心の教育の充実」の  
三本柱に取り組んでいる。

「学力の向上」ために①質の高  
い授業の創造 ②TT学習の充実

「絆を深める学校づくりを目指し  
て、豊かにかかわり合う場の工夫  
を通して」

町田市立鶴巻第三小学校校長

高倉ひでみ先生

絆を深める学校経営とは、学校  
に関わる人々との絆を深めて子ど  
もの学力向上、人間関係力の向上  
を目指すことである。「子どもの  
最大の教育環境は教師」というこ  
とを教育信条に掲げている。

一 校内研究

二 異年齢のかかわり

三 地域とのかかわり

四 教職員の組織の繋がり

等を通して絆を深める学校経営  
に取り組んでいる。

「新学習指導要領の実践にむけた  
学び合う組織の構築」

府中市立府中第三中学校校長

谷合しのぶ先生

「一学力向上」「二生活指導」  
「三 学校運営」を課題解決の方

策として取り組んでいる。

一 次年度を見通した意図的・計  
画的な行動選択と意識付けを  
する。

二 率先垂範を通して、教育に対  
する理念や態度を明確に発信  
する。

三 自分の目で確かめる。自分の  
心で感じて考える。そして、  
方策を決定する。

等を信念として学校経営に力を  
入れている。

## 〈指導講評〉

東京都白鷗高等学校・付属中学校

校長 星野 喜代美先生

今日は、講師でなく小学校・中  
学校の学校経営の在り方を学びに  
来た。小学校・中学校の研究発表  
を聞いて大変勉強になった。  
課題は、目標や成果を数値で表  
すことが大切である。

外部と協働のネットワークを  
築く。

効果的に活かす組織づくりや  
環境整備をする。

期待される目標を達成するた  
めに強い信念をもつことが大  
切である。

取り組むべき課題を明確し  
て、計画的に取り組む。

# 教育懇話会

厚生部長 西 弘美

国立市立国立第八小学校

朝からの雨が嘘のように晴れ上  
がり、紅葉の進む景色を楽しみな  
がら会場の府中駅前「ホテルコン  
チネンタル」に集いました。講師  
の星野喜代美先生を囲み、小・中  
学校の校長合わせて二十一人の参  
加を得て、会場は熱気あふれる話  
題に包まれました。

会の中で星野先生から、「女性  
の校長先生方は今日の研究発表を  
聞かれて分かるように、課題のと  
らえ方、方策への取り組みなど実  
践力は素晴らしいです。校長は自  
らの考えを貫き通す姿勢が大切で  
す。」とエールをいただきました。  
パワーとパッションとパーソナ  
リティを全て備えた星野先生の  
情熱溢れる激励に、参加者一同明  
日からの学校経営の活力をいただ  
きました。今回星野先生に高等学  
校の視点からお話しいただいた  
ことにより、幼・小・中・高と経  
営の視点が広がったことが大きな  
成果となりました。大いに英気を  
養った、また、貴重な情報交換の  
二時間でした。

代筆 半田 あつ子

# 自分の考えをもって

## 活動する児童の育成

— 思考させる食育を目指して —

練馬区立田柄第二小学校長 富澤 素子

本校は、平成二十二・二十三年  
度 練馬区教育委員会教育課題研  
究指定校として、十二月十五日、  
研究発表を行う。

### 一、はじめに

本校は、練馬区の北部に位置し、  
周囲には農地が点在している。地  
域教育力がある。歴代PTA会長  
から成る組織も、常に学校を支え  
てくれている。

「楽しい学校・安全な学校・き  
れいな学校」を学校経営の柱とし、  
「元氣な子ども・考える子ども・  
思いやる子ども」という教育目標  
の具現化を目指し、教育活動に励  
んでいる。

### 二、本年度の研究の概要

#### (一) 研究主題設定の理由

近年、核家族化が進み、外食産  
業も発展する中で、生活習慣病の  
低年齢化等が問題視されている。  
「六つのこ食」に示されるように  
食生活も変化している。

食育基本法が改訂された。食育  
が、生きる力の基本、知育・徳育

及び体育の基礎との位置付けは変  
わらない。学習指導要領には「学  
校における食育の推進」が謳われ  
た。全教科・領域等で、それぞれ  
の特質に応じた指導の充実が求め  
られている。

そこで本校では、教育目標の「考  
える子ども」を重点課題に、「自  
分の考えをもって活動する児童の  
育成」を研究主題とし、全教育活  
動で、「思考させる食育」を目指  
すことにした。

大人になってからでは、食生活  
を安易に変えられない。しかし、  
十年後には親になる児童もいる。  
間断のない健全な食生活が送れる  
児童の育成を目指した。

#### (二) 具体的な実践内容

##### ① 給食指導の時間での実践

給食は「生きた教材」である。  
毎日の食の実践場面でもある。  
食事のマナーや栄養指導等の日  
常化と共に、教師も児童と楽し  
い会食に心がけた。

##### ② 授業での実践

食育という授業はない。示さ  
れた指導書もない。食育の六つ  
の視点（食事の重要性・心身の  
健康・食品を選択する能力・感  
謝の心・社会性・食文化）は要  
である。そこで、各教科・領域  
等のどこで食育を重ねていける  
かを考え、それぞれの特質を生  
かすことも重視した。

学級活動は、特に食育の視点  
を重ね易い。学級活動の特質、  
自己決定等の場面を重視し、六  
年間の指導内容の核とした。各  
教科等の指導内容と連携させ、  
発達段階に応じた指導計画を作  
成した。

道徳の授業では、題材を通し  
て、その特質を踏まえた。児童  
が、自分の生き方の中の課題に  
ついて深く考えたり感じたりす  
る時間を大切にしたい。

問題解決型授業を展開できる  
総合的な学習の時間では、体験  
的な学習に力を注いだ。

家庭科や体育（保健）では、  
指導事項と密接した食育の内容  
を重ね、授業実践ができた。

##### ③ 家庭・地域との連携実践

家庭との連携を図る手段の一  
つとして、ワークシートを活用  
した。授業後の感想に保護者の  
欄を加えた。授業内容を伝える

と共に、家庭への啓発となるよ  
う配慮した。

地域は、食育の教材の宝庫、  
体験的活動の場として活用させ  
ていただいた。授業実践の講師  
としても協力していただいた。

### 三、研究の成果と課題

#### (一) 成果

○児童の変容が見えた。食に関  
心をもつ児童、苦手意識を克  
服した児童、家庭の食事を見  
直す児童等を育成できた。

○系統性をもたせた各学年の年  
間指導計画が作成できた。

○教材開発ができた。全二十二  
学級の公開授業の指導案等  
をまとめ、「略案集」として  
五十三の実践事例を紹介でき  
た。

#### (二) 課題

○「授業で勝負する教師」とし  
て、授業力の向上が見えた。

#### 四、終わりに

○指導内容の精選及び各学年と  
連携した学習課程の継続

○家庭・地域と継続した連携

教職員が一丸となり、同じ研究  
主題で授業に臨むことが、児童の  
大きな変容に繋がることを確信し  
た。

今後も児童の心身の健康を求め  
研究を推進していきたい。

# 小中連携による確かな学力の向上を 図るための指導法の工夫改善

中野区立武蔵台小学校長 松本 恵美子

本校は、平成二十二・二十三年  
度中野区学力向上事業指定校とし  
て隣接する中野区立北中野中学校  
と共同研究を行ってきた。平成  
二十四年二月十七日に合同発表会  
を開催する。

## 一、研究の概要

### (一) 主題設定の理由

学習指導要領総則の教育課程の  
実施上の配慮事項の一つとして、  
学校相互の連携や交流が取り上げ  
られ、解説では「それぞれ学校段  
階の役割の基本を再認識すること  
となるとともに、広い視野に立つ  
て教育活動の改善充実を図ってい  
く上で極めて有意義」と述べられ  
ている。

また、これまでの実態調査や情  
報交換等から小学校、中学校共に、  
学習内容の定着の格差、学習習慣  
の確立等に課題があることが明ら  
かになった。そこで、学力向上に  
向けて、重点教科と教科指導を支  
える各種習慣の定着に焦点を当て  
て中学校との共同研究を進めてい  
くこととした。

### (二) 目指す児童像

両校の教育目標や基本方針を確  
認し合い、九年間で目指す児童像を

- 基本的な生活習慣を身に付けた子
- 粘り強く主体的に学習に取り組む子
- 集団で友達と協力して学び合う子と設定し研究を進めた。

### (三) 研究の視点

小中学校との接続で段差が大き  
いと思われる「算数→数学」「外  
国語活動→外国語」「体育→保健  
体育」を重点教科とし、学習規  
律、学習習慣、生活習慣を学習の  
ベースとした五つの分科会を設定  
した。その際、

- ① 相互の情報の共有と共通理解
  - ② 学習指導方法の改善と系統
  - ③ 合同・協力・出前授業の推進
  - ④ カリキュラムの連続性と接続性
  - ⑤ 児童・生徒の交流の推進
  - ⑥ 学習規律の系統性と定着
  - ⑦ 生活習慣の確立と家庭学習の推進
- の七つを小中連携の基本的な柱とし  
て具体的な実践を行っていった。

### 二、研究の取り組み

#### (一) 算数・数学分科会

かけ算九九、小数や分数の計算  
等の実態から基礎的な計算能力の  
向上が小中学校相互に必要だと考  
えた。

○ 各学年でつまづきの多い計算の一  
覧と児童用問題を作成し重点

月間を定めて授業開始の五分間を  
利用して繰り返し取り組ませた。  
○ 小中学校それぞれの授業に異校  
種の教員がT2指導に加わり小  
学校では発展的問題を、中学校  
では個別指導をする取組を試行  
した。

#### (二) 外国語分科会

小中学校で実施したアンケート  
から、小学校の外国語活動の学習  
経験を中学校で生かそうと考  
えた。

○ 英語表現の一覧を作成して、相  
互の内容や活動を意識しながら  
指導を行っていった。

○ 小学校では音声以外にもアル  
ファベットに触れられるように  
教室表示や曜日等を英単語で掲  
示した。

○ 小学校の授業に、ALTの代わ  
りに中学校英語教員が指導に加  
わる合同授業を試行した。

#### (三) 体育・体力向上分科会

小中全学年で実施した新体力テ  
ストの課題を踏まえて授業を  
行なった。

○ 小学校の器械運動で外部指導員  
や中学校体育教員がT2として加  
わりTT授業の充実を図った。

○ フラッグフットボールを小学校  
四年生以上で実践し、中学校の  
授業参観を実施したり、中学校  
ラグビー部のコーチを招いて児  
童の指導の工夫改善を試みたり  
した。

#### (四) 学習規律分科会

教員アンケートの結果から、学  
習規律の共通理解と統一した指導  
に向けた取組が必要だと考えた。

○ 小学校低学年から中学校までの  
共通すべき学習規律の一覧を作  
成し、共通理解を図って指導を  
行なった。

○ 小学校では、一覧を分かりやす  
くして教室等に掲示し、日常  
な児童の意識化・定着を図った。

#### (五) 生活習慣・家庭学習分科会

基本的な生活習慣の実態調査を  
行なった結果、各学年の発達段階に  
応じた指導が必要だと考えた。

○ 小学校低学年では、生活点検表  
を活用して担任と養護教諭との  
TT指導を行い、高学年では、  
生活習慣確立に向けた講演会を  
行なった。

#### 三、成果と課題

○ 家庭学習応援プロジェクトを実施  
して家庭学習の定着を図った。  
二年間の共同研究を通して、教  
育課程の共通理解→計画・実施→  
評価→次年度の教育課程作成のサ  
イクルが確立し、系統を踏まえ、  
協働して児童生徒の育成を進めよ  
うとする教師の意識変革が生まれ  
た。一方、打合せや授業時間の調  
整、指導計画の作成等の課題も大  
きい。また、小中それぞれに大切  
にすべき特質があることも忘れて  
はならないだろう。

## 実感のある学び

— 主体的に問題解決する児童の育成 —

算数科を中心として

小金井市立東小学校長 中川 裕子

本校は、平成二十二年度小金井市学力向上推進指定校、平成二十三年度小金井市「わかる・できる・活かす」授業改善推進指定校として、十一月二十五日に研究発表を行った。

### 一 はじめに

本校は、緑豊かで落ち着いた住宅街の中にあり、素直で明るい児童が広い校庭で伸び伸びと遊んでいる。今年度は、特別支援学級(知的障害・固定)が開設され、通常学級との交流を積極的に行い、「やさしい子 考える子 元気な子」の学校教育目標のもと、「楽しい仲間 感動と夢あふれる 東小」をキャッチフレーズに、教育活動の充実を図っている。

### 二 研究の概要

#### (一) 研究主題設定の理由

算数科の新学習指導要領では、算数的活動を通して、数量や図形の意味を実感をもってとらえた

り、思考力・判断力・表現力等を高めたりできるようにするとともに、算数を学ぶことの楽しさや意義を実感できるようにするために、児童が目的意識をもって主体的に取り組む活動となるように指導することが求められている。本校では、問題解決の学習過程を【これでいこう！(つかむ・見通す)】【できた！(考える)】【わかった！(比べて考える・まとめる)】【使ってみよう！(あてはめる・振り返る)】とし、問題解決の学習を積み重ねることで「実感のある学び」を得ることができると考え、児童一人一人の「実感のある学び」を目指した授業づくりを進めることにした。

#### (二) 育てたい力

##### 〈低学年〉

算数的活動を楽しみ、自分の考えを操作、絵、図、式やことばで伝え合う力

##### 〈中学年〉

既習事項を根拠にして見通しをもって考え、表現する力

##### 〈高学年〉

根拠を明確にして筋道を立てて考え、よりよく解決する力

#### (三) 研究の取り組み

問題解決の学習過程に沿って、問題提示の工夫・既習事項の掲示・操作活動の重視・ノート指導・座席表による評価・学習形態の工夫・話型の指導・よりよい解決方法の選択・適用問題を解く場の設定・振り返る項目の設定を教師の手立てとして実践した。また、実感している時の児童の言葉や態度を「必要感」「期待感」「達成感」「受容感」「満足感」「有用感」に分類、整理した。シミュレーション授業を行い、授業者は板書計画や発問を中心に準備をし、児童役の教師とともに、教材について深めていった。

#### (四) 公開授業

一年 「ひきざん2」

二年 「かけ算4」

三年 「三角形」

四年 「面積」

五年 「図形の面積」

六年 「比例と反比例」

### 三 成果と課題

実態調査で「算数の授業が楽しくよく分かると感じる時」を「できた、わかった時」と答えた児童が一番多く64%であった。主体的に問題解決の学習を進めていくことが、できた、わかったと実感する学びにつながる事が分かった。テスト等では無回答の児童が減り、自力解決の意欲が育ってきた。話型指導やペア、小グループでの話し合いの場の設定で、多くの児童が自分の考えを説明できるようになった。座席表の活用は、児童の評価や支援、次時の指導に有効であった。

課題としては、よりよい考えに気付かせる発問等の指導の工夫、解決したくなるような問題や提示方法の吟味がある。

#### 四 おわりに

年間講師の元東京都算数教育研究会会長 松野康子先生から厳しくもきめ細やかなご指導を頂き、本校教員の授業力は確実に高まった。若手教員が分科会リーダーとなり、ベテラン教員の支援を受けながら役目を果たし、人材育成の点からも価値ある研究であった。

# 自分と共に

## 他者を大切にする子の育成

台東区立千束小学校長 篠原 敦子

本校は、十一月十八日、平成二十三年度文部科学省人権教育研究指定校として、研究発表を行った。

### 一、これまでの取組

本校は、明治三十九年、東京市千束尋常小学校として開校以来、浅草の下町情緒あふれる地域に支えられ、創立百六年を迎えた。

現在の児童数は百七十五名、六学級の小規模校であるが、その良さを生かし千束ファミリーとして保護者・地域・教員が一体となり子供たちの教育に当たっている。

学校教育目標は、人間尊重の精神を踏まえ、自ら考え正しく判断し、主体的・実践的に取り組む人間性豊かな児童の育成を期する。

- 明るくたくましい子
- 深く考え最後までやりとげる子
- 思いやりのある心豊かな子である。

### 二、研究の概要

#### (一) 主題設定の理由

児童の実態や保護者・地域・教師の願いを受け、本校では次の三点を人権教育の目標に掲げた。

- 基礎学力・基本的生活習慣の定着向上
- 自分らしさの発揮（自己実現の達成）
- 社会貢献の精神の育成

この三点の目標を受け、目指す児童像を「自信あふれる千束の子」と設定し、全教職員の共通理解の下、指導していくこととした。自信あふれる姿は、右記の人権教育の目標から、次のようにとらえた。

「自分自身を大切にす」へ人とかかわりの中で相手のことを考えられる」

このような児童を育むため、研究主題を「自分と共に他者を大切にすの子の育成」とした。

- (二) 研究の内容
- 研究主題に迫るために三つの内容に取り組んだ。
- 【人権教育の視点を明確にした授業の充実】

各教科等の単元の目標や内容等を踏まえ、人権教育を通じて育てたい資質・能力を明らかにした上で、「人権教育の視点」を設定して授業を行う。

### ○普遍的な視点からの取組

主として価値的・態度的側面と技能的側面の資質・能力を養い、知識的側面の「人権についての概念」を理解させる。

### ○個別的な視点からの取組

「人権の発展・人権侵害等に関する歴史や現状に関する知識」を理解させるために、それぞれの偏見や差別に出会わせ、それを解消しようとする学習計画を立てる。

【人権感覚を養い、実践力を養うための日常生活の充実】

- 規律ある生活習慣
- 千束スタンダードの徹底
- コミュニケーション能力
- 縦割り班活動
- 千束幼稚園との交流
- 人権の意義・内容
- 人権標語作成
- トライ&チャレンジ月間
- 「生命尊重」
- 「人権の花」の栽培
- 小動物の飼育

【努力を認める取組】

【教師の授業力向上のためのOJTの充実】

人権教育の成立基盤としての教育・学習環境を充実させるために教師の授業力向上を図った。

- OJTの時間の確保
- OJTリーダーによる運営
- 各教科等の指導技術の研修
- 一人年間六回の授業公開
- 教師としての教養の充実
- 授業改善マネージメントカード

### (三) 公開授業

- 一年 道徳 相手の本気の気持ちは
- 二年 道徳 おじいさん
- 三年 社会 工場ではたらく人々
- 四年 総合 住みよいまちを目指して
- 五年 総合 ともに生きるために
- 六年 社会 明治の国作りを進めた人々

### 三、成果(◎)と課題(●)

◎各教科等でのような人権教育に関わる資質・能力を育めばよいのかを理解することができた。

◎児童の人権教育に関わる資質・能力を育むことができた。

◎日常的な活動や授業での取組を通して、「相手のことを考える」という視点を児童に意識させることができた。

◎OJTの取組を確立することができた。

●児童の人権感覚を高めるだけでなく、実践力につながるよう取組内容を充実していく。

●人権プラザ等の外部機関との連携をさらに工夫していく。

### 三、所感

若手教員の多い本校にとつて、人権教育を進めようと思えば思うほど、教師自身の授業力を高めたいと真剣に取り組んだ研究でした。

# 高知大会を終えて

第六十一回全国大会

八王子市立陶鏝小学校長

半田 あつ子

## 大会主題

新しい時代を切り拓く  
心豊かでたくましい  
日本人を育成する

～豊かな人間力で明日を拓く  
子どもをはぐくむ学校経営～

## 一 はじめに

第六十一回全国大会高知大会は、七月二十八日・二十九日、高知県民ホール、高知新阪急ホテル、高知会館を会場に、全国から大勢の会員が集まり、盛大に行われました。

文部科学省大臣官房審議官 徳久治彦様、高知県知事 尾崎正直様、高知市長 岡崎誠也様を始め多くの方々にご臨席を賜り、たくさんのお祝いや励ましのお言葉をいただきました。

## 二 特別講演

開会式に引き続き、文部科学省大臣官房審議官 徳久治彦様より「当面する初等中等教育上の諸課題」と題して講演がありました。新学習指導要領の円滑な実施、文部科学省の予算要望、特別支援教育の動向等について話された後、日常の授業態度(鉛筆の持ち方等)への指導の充実を望まれました。

## 三 分科会・分散会

大会主題を受け、次の(一)～(三)の三つの分科会があり、それぞれ二つの分散会に分かれて、研究発表が行われました。  
(一)「生きる力」をはぐくむ学校経営  
(二)「知識・技能の習得と思考力・判断力・表現力をはぐくむ学校経営」  
(三)「豊かな心や健やかな体をはぐくむ学校経営」

## 四 指導講習

終了後の全体会でまず、高知県教育委員会事務局 池康晴様より指導講習がありました。

## 五 記念講演

「テレビを裏から見れば」の演題でキャスターの福留功男様の記念講演がありました。

「男女共同参画社会の推進を通して」  
(二)「学校力」を高める学校経営  
(三)「組織マネジメントを生かし、学校力」を高める学校経営

①組織マネジメントを生かし、「学校力」を高める学校経営  
②学校評価や家庭・地域の教育力を生かした学校経営  
私は、第三分科会第二分散会に参加しました。「子どもが自ら感じる成長のために、学校力の向上を求めて」という協議題のもと、学校評価を生かした学校改善のあり方について提案者の発表がありました。

グループ協議では各校の取り組みを紹介しながら、学校評価の実施状況や課題について情報交換することができました。

六つの分散会への丁寧なご指導の後、校長の役割はカオスの状態をクリアな状態にすることであると話されました。課題を明確化し、目標・計画を示した後、信頼関係を基軸にベクトルを合わせ、学校を改革する。組織がしっかりすれば評価が確実に回るとの話もありました。

## 五 記念講演

「テレビを裏から見れば」の演題でキャスターの福留功男様の記念講演がありました。

「今の子供たちはテレビのある生活の中で育っている。活字文化で育てば、頭の中で創造する力が育つ。五月にやめていく新入社員が多い。家庭からいやなことが全部排除されている中で、理不尽だらけの現実社会をどう生きていけるのか。九歳までに理不尽なこと、危険なことに即応していける子供を是非育ててほしい。」とお話に感銘を受けました。

全国の校長先生方と出会い、明日への活力を得られた二日間でした。

## ◆編集後記◆

会報六十七号をお届けします。二学期の各種行事の多い中、執筆のお願いに快くご協力をいただきました感謝申し上げます。

広報部担当 南里 洋子  
(北区立滝野川第六小学校)

②教職員の参画意識を高め、組織の活性化を図る学校経営

②教職員の参画意識を高め、組織の活性化を図る学校経営